

認定 NPO 法人アレルギー支援ネットワーク

<http://www.alle-net.com/>



◆ アレルギー支援ネットワーク 通信 ◆



NO. 72

2012.12.1

※等幅フォントでご覧いただくと最適に表示されます。

皆さん、こんにちは。はやいものでもう師走ですね。

あっという間に 2012 年も残り 1 ヶ月となりました。今年 1 年はいかがでしたでしょうか。

今月のメールマガジンもたくさんの内容をお届けします。ぜひ最後までメールマガジンをお楽しみください。

===== も く じ =====

1、「気管支喘息とアレルギー性鼻炎・副鼻腔炎」第 12 回（最終回） てらだアレルギーこどもクリニック院長 寺田明彦

2、「アレルギーのおはなし」第 5 回 あいち小児保健医療総合センター 佐々木溪円

3、東日本大震災に対する支援活動のご報告 認定 NPO 法人アレルギー支援ネットワーク 理事 栗木成治

4、アレルギーっ子のおいしいレシピ 近藤由美

5、日進アレルギーの会より「クリスマス会」のご案内

6、「名古屋市内的アレルギーの（親の）会 交流会（連絡会）」のご報告 認定 NPO 法人アレルギー支援ネットワーク 理事・事務局長 中西里映子

7、『東海地域にアレルギーを持つ親子を地域で支えるサロンを』プロジェクト～寄付キャンペーンご協力のご願い～

8、「食物アレルギーによるひやりはっと事例の調査アンケート」ご協力のご願い

9、賛助会員からのメッセージ ニチモウバイオティックス

10、アレルギーっ子フェア開催決定のお知らせ

11、12 月度「アレルギー児の親の交流会」開催のお知らせ

12、「アレルギーっ子の防災セット」登録についてお知らせ

13、アレルギー教本「食物アレルギーの基礎と対応」のご案内

14、メールマガジン会員募集中！無料です。

15、募金にご協力ください

=====

1、「気管支喘息とアレルギー性鼻炎・副鼻腔炎」第十二回（最終回）～喘息治療の「リアルライフ」～ てらだアレルギーこどもクリニック院長 寺田明彦

早いものでもうすぐ年の瀬です。最初は6回程度というお話でお引き受けしたメールマガジンですが、回を重ねて延長させていただきました。お付き合いいただいた皆さんにお礼を申し上げます。今回で最終回となりました。さて、最近、喘息患者実態電話調査である Asthma Insights and Reality in Japan (AIRJ) 2011 が報告されました[足立 満 他:アレルギー・免疫 2012: 19(10)]。これは、全国の登録世帯(264,000世帯)対象にランダム(無差別)に電話インタビュー調査を行ったものです。それによると、スクリーニング協力世帯13,236のうち喘息あり955世帯でした。さらにこのうち協力了承世帯800(成人400、小児400)で調査されました。小児の調査で得られた結果をみると、男子が65%と3分の2を占めており平均年齢は8.8歳でした。喘息重症度は軽症間欠型(発作が年に数回)58%、軽症持続型(発作が月に数回)23%、中等症持続型(発作が週に数回)15%、重症持続型(発作がほぼ毎日)4%でした。家庭内喫煙者あり45%と受動喫煙が半数近くありました。最近1ヶ月間に喘息症状を経験した患者の割合をみると、①日中38%、②夜間26%、③スポーツなど身体活動中30%と①~③いずれかに該当する場合は60%にも上りました。また、最近1年間の入院4%、救急治療5%、医療機関への予定外受診56%、学校や園の欠席42%と入院こそ少なくなりましたが、予定外に受診や学校などの欠席も多く認めていることがわかりました。喘息が妨げる社会生活上の活動の中では、睡眠40%、スポーツおよびレクリエーション32%、ライフスタイル20%、社会活動15%、通常的身體動作10%の順で多く、いずれかに該当するケースが52%も認めています。つまり、喘息治療を行っていても、多くが何らかの生活の質QOLを妨げられているとわかりました。さらに治療として吸入ステロイド薬の使用率は20%でした。そして吸入ステロイド薬を中断した方の理由を聞いたところ、①症状がなくなったので66%、②発作がおさまったので36%、③医師の指示29%、④他の薬に変わった5%、⑤薬を長期間のみたくなかったので3%でした。つまり自己判断で吸入ステロイド薬をやめてしまう方が圧倒的に多いことがわかりました。

この調査では、小児気管支喘息治療・管理ガイドライン2012の治療目標についてAIRJ2011に照らし合わせて現状を評価しています。①昼夜を通じて症状がない → 最近1ヶ月間に喘息症状がなかった40%、②ピークフロー(PEF)やスパイログラムがほぼ正常で安定している → ピークフローメーターを知っている29%、ピークフローメーターを週に1回以上使用している1%、肺機能検査を受けた16%、③気道過敏性が改善し、運動や冷氣などによる症状誘発がない、およびスポーツも含め日常生活を普通に行うことができる → 最近1ヶ月間の身体活動中に喘息症状がなかった70% という結果でした。

AIRJ2011から喘息患者の実態「リアルライフ」としてまとめると、(1)我が国のガイドラインでは、「健常人と変わらない生活」という治療目標が掲げられているが、現在のコントロール状況は決して十分とはいえない。(2)吸入ステロイド薬は一定の普及が示唆されるが、治療の基本治療薬であることをふまれば、更なる普及が求められる。喘息は慢性疾患であり、長期コントロールが必要であるにもかかわらず、患者の自己判断による服用中止がみら

れる。これを踏まえて、よりよい喘息コントロールを目指して行動することが大事だと知りました。

これまでは、医師の指示を順守する患者であることを指す「コンプライアンス」が問われていました。これはともすると医師が上から目線で「言いつける」という姿勢になってしまいがちで、患者が治療意欲をそがれ受け身になってしまい治療効果が上がらないことがありました。これとは違い、患者が主体的、積極的に治療に取り組めるような能動的な治療行動を実践することを指す「アドヒアランス」が重要であることがわかり、このアドヒアランスを向上させることが大事だと思います。つまり、患者が治そう、治ろうという意欲が治療効果を上げ、そして患者が良くなってゆくことが導ける診療姿勢が医師を始め医療従事者にとって大事なことです。遊び盛りの子供ですので、学校や園から帰宅したあとクリニックというあまり好みでない場所に出かけるのは嫌でしょうね。そのような貴重な時間を費やしても受診していただける、患者と保護者が頼れる病院やクリニックであることが、ひいては患者と医療者の信頼関係を育み、より良い医療が実践できると感じます。

しかし、日本の病院やクリニックの外来診療では、失礼な言い方ですが患者を「さばく」というような繁忙極まりない外来です。一時期「5分ルール」というのが診療報酬にあり、5分間患者を診る時間をかければ算定できる報酬がありました。たったの5分ですが、それでも医師は必死になって丁寧な診療と説明に努力したものです。この算定基準はなくなりましたが、たったの5分しかかけられない外来診療ではどうしてもお伝えできない内容や説明不足が生じてしまいます。これを改善するためには、看護師、薬剤師、栄養士、事務スタッフも併せたコメディカルの協力が不可欠だと感じます。

日本小児難治性喘息・アレルギー疾患学会では、医師ばかりではなく小児アレルギー疾患に携わる看護師、薬剤師などコメディカルと患者家族会の方々が学会を通じてより良いアレルギー診療を目指しています。この会では日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会認定小児アレルギーエデュケーター制度を作り、アレルギー専門ナースを育成しています。その総則第一条に目的が書かれています。「小児の喘息・アレルギー疾患の治療においては医師のみならず、多くの職種の協力が必要である。日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会は、小児アレルギー疾患の医療を十分に実施し、広めていくことのできる人材を育成し認定することによって認定されたものが十分に実力を発揮し、成長を続けられるように支援することで喘息・アレルギー疾患の医療が向上することを目的に、日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会認定小児アレルギーエデュケーター制度を実施する。」とあります。

今後の喘息を含めたアレルギー疾患の診療は、ますますニーズが高まると思います。解決しなければならない課題は山積しています。実際使える喘息長期管理薬をどのような患者に対してどう使えばいいのか、また副作用ない予防薬の研究と開発やアレルギーマーチをきたさないように、発症を予防する方法の確立なども重要です。今後も、アレルギー学の発展と患者家族のQOL向上、そして治癒と発症予防を目指した治療方法の確立に取り組みたい

と思っています。

では、寒さも一段と厳しくなってきます。今年は喘息を悪化させるRSウイルスやマイコプラズマ感染症が過去に例をみないほど流行しています。また、これからはインフルエンザウイルスの季節を迎えます。皆様のご健康とご多幸を心からお祈りしつつ、最終回をこれで終えます。

文責 たらだアレルギーこどもクリニック 院長 寺田明彦

2、「アレルギーのおはなし」第五回 ～RSウイルスと気管支喘息～ あ
いち小児保健医療総合センター 佐々木溪円

みなさま、いかがお過ごしですか。前回書きましたように、秋に生じる気管支喘息の悪化にはライノウイルスなどの呼吸器感染が関与しますが、喘息に影響を与えやすいウイルスは年齢によって異なります。例えば、低年齢ではRSウイルスが関わる例が多く、このウイルスは喘息発症にも影響するウイルスとして知られています。

RSウイルスはRespiratory syncytial virusという名前のウイルスで、私たち人間が唯一の感染源です。1歳までに半数以上が、2歳までにほぼ100%の人がRSウイルスに1回は感染すると考えられています。潜伏期間は2～8日で、せき、鼻水などが2～3日続いた後に、感染が細気管支に至った場合には浮腫と分泌物などにより細気管支が狭くなる細気管支炎となり、喘鳴などの呼吸苦症状がみられます。感染経路は飛沫や、呼吸器からの分泌物で汚染された手指や物品を介した接触が主なものです。感染力が強く、何度も感染を繰り返しますが、年長者が再感染した場合には典型的な症状がみられずにRSウイルス感染症と気付かれない軽症例も多くみられます。このような特徴により、軽症の上気道炎症状（カゼ症状）の年長者が感染源となった、家族内感染や保育施設内の集団感染も生じます。RSウイルスの感染対策には手洗いや症状がある場合はマスクをすることが有効になります。

さて、RSウイルス感染症と喘息発症の関係については、1990年代以降に複数の調査がされてきましたが、そのほとんどの報告で、乳幼児のRSウイルス感染と喘息発症との関連性があるとされています。YamadaらはRSウイルスの感染によって気道の表面に傷がつくこと（気道上皮傷害）が、さまざまな炎症性の物質が体内で作用しやすい環境をつくり、気道過敏性を高めて喘息の発症に至る可能性を示しています。しかし、RSウイルス感染の全例が喘息発症に至るわけではありません。Singhらによると、RSウイルス感染、タバコの煙などの環境因子、喘息の家族歴などの遺伝因子、さらに感染時の発育段階などの条件が相互に作用して、RSウイルス感染が細気管支炎で終わらずに喘息に進展すると考えられています。

国内では感染症法によって、主要な感染症の発生動向を毎年調査し、感染症

対策をしています（このような医学分野を公衆衛生学といいます）。RS ウイルス感染症の発生数は全国の小児科定点医療機関から報告されていますが、この報告数は毎年冬にピークとなります。今年は、2003年以降の最多報告数を更新していますので、ニュースなどでRSウイルスが流行しているという話を聞いた方もいらっしゃると思います。この発生報告の診断基準には症状とウイルスの検査（分離・同定、迅速診断キットによる抗原検出、血清抗体検出による病原検査）が必須とされています。医療機関で多用されている迅速診断キットの医療保険適用が2011年10月から拡大され、外来受診した乳児、シナジスの適応患者も適用となりました。今年の報告数増加の背景には、このような検査をしやすくなった環境も影響している可能性があります。今がRSウイルスの流行時期であることには変わりありません。好き嫌いをなく食べて栄養補給をしたり、手洗いをするなどの感染予防に留意しましょう。

参考文献：

- van den Hoogen BG et al. Nat Med 7:719-724 (2001)
Singh AM et al. Am J Respir Crit Care Med 175:108-119 (2007)
Yamada Y et al. Allergol Int 59:1-20 (2010)
岡部信彦監修 最新感染症ガイド (Red Book 2009, 28th Edition)
吉原重美 小ア誌 24:659-668 (2010)

3、東日本大震災に対する支援活動のご報告 認定NPO法人アレルギー支援ネットワーク 理事 栗木成治

東北大震災の支援事業として、岩手県気仙地区（大船渡市、陸前高田市、住田町）においてアレルギー相談を行いました。2012年7月から11月の間に合計6日間実施する計画で、11月11日に最後のアレルギー相談を無事に終了致しました。

この事業は、多くの皆さまのご協力のもとに実現し、当日の会場運営も含めてお世話になっています。この場をお借りして、お礼申し上げます。

今回は、アレルギー相談に参加した現地スタッフの声をお伝えしたいと思います。

☆☆

『スタッフとしてアレルギー相談に参加して』

子育てサポーター「スマイル」 菊地朱美

こんにちは。子育てサポーター「スマイル」の菊地と申します。東北事務局のスタッフをしております。

11月11日で、アレルギー相談が終わってしまいました。
アレルギー相談最終日、2件増えて16人の相談者となり、漢人先生には休憩も取らずに対応をしていただきました。本当にありがとうございます。

今日は、子育てサポーター「スマイル」としての活動日でしたが、昨日のアレルギー相談に来られた方が「ゆっくり、解りやすく説明して頂いたのがよかった。」と言っていましたし、昨日相談を終えた後の雑談の中でも「話を聞いてもらい、相談にのってもらえてよかった。モヤモヤが取れたわ。」「スッキリしたわ。」…等の声が聞かれました。本当にありがとうございました。マスクも4層構造というのにビックリで、皆さん「明日から使ってみるかなぁ！」と大事に頂いて帰られました。なんとマスクが洗えるのにも驚きですよ。運営をされていて、相談された方々の嬉しい声が聞こえてくると、私まで嬉しくなります。

他にも、ご相談をされた方々の感謝の声をご紹介したいと思います。

「相談に来て大変よかった。」

「食べられないと思っていた食べ物も食べられると知って、楽しみが増えました。」

「先生とゆっくりお話しできて良かった。」

「先生たちの対応が優しくて、安心してお話しができました。また、薬に対しての不安もとれ、安心できました。」

「アレルギーの物資を頂いて助かりました。マスクは最高でした。」

「心がスッキリして、ゆとりができたような気がします。」

などなど…。

私たち、子育てサポーター「スマイル」はスタッフとして、託児の対応をさせていただきました。託児を受けて泣く子もいなく、さらには帰りがらずに「もっと遊んでいく！」と遊んでいく子もいました。そう言ってもらえると、お母さんたちや、お子様たちとの繋がりが出来たような気がして、大変うれしく、やりがいを感じました。

最後に、アレルギー相談をしてくださった先生方や、ご協力いただいた多くの方々、どうか風邪をひかないよう、お体を大切にお過ごしください。

4、アレルギーっ子のおいしいレシピ

「 蒸しパン de クリスマス 」 近藤由美

リンゴがおいしいこの季節。そんな旬のリンゴを使った、クリスマスにピッタリな蒸しパンができましたよ！

お子様と一緒に作ってみてはいかがでしょうか。

ぜひご覧ください。

レシピはこちらから

5、日進アレルギーの会より「クリスマス会」のご案内

日進アレルギーの会では、12月15日（土）に「クリスマス会」を開催致

します！食物アレルギーに対応した、クリスマスメニューの調理実習を行います。

調理後は出来上がった料理を食べながら、アレルギーについて疑問や悩みなど、いろいろお話ししませんか？

ぜひ、ご参加ください。

【日時】 12月15日（土）午前10時～12時（予定）

【場所】 日進市西部福祉会館

■まだ、内容は検討中の為、詳細をご案内することはできませんが、ご興味のある方は、アレルギー支援ネットワーク事務局までお問い合わせください。

【お申し込み・お問い合わせ】

NPO法人アレルギー支援ネットワーク事務局

TEL(052)485-5208

FAX(03)6893-5801

6、「名古屋市内のアレルギーの（親の）会 交流会（連絡会）」のご報告
認定NPO法人アレルギー支援ネットワーク 理事・事務局長 中西里映子

去る11/12(月)10:00- 名古屋市内のアレルギーの（親の）会の交流会（連絡会）を行いました。

名古屋市内には、現在、8つの会（南部（南・港）・中村・緑・守山・名東・天白・昭和・食物アレルギー児ママの会）がありますが、5団体18人と、アレルギー支援ネットワークから中西が参加をしました。

交流会の趣旨は、園や小学校の給食のこと、東海東南海地震に対する備えのこと、子育て支援の体制のこと等、地域にある問題の情報交換をして実情を把握し、その問題が解決できるよう話し合いをすることですが、最初にそのことの確認をしました。

その後、自己紹介を行い、情報交換と交流をしました。特に園や学校の給食については関心も高く、来年4月に、入園入学する予定の幼い子どもを連れて親御さんの参加もあり、話は尽きませんでした。次回の交流会までに、それぞれの会が園や学校の給食についてのアレルギー対応の現状把握と分析をしていくことと、地域の災害対策について調べたり、アレルギー対策の要望を出したりすること、を宿題に、第一回の交流会（連絡会）は、終了しました。

次回は、3月11日(月) 10:00- の予定です。今回ご都合がつかなかった方も是非第2回にご参加ください。

7、『東海地域にアレルギーを持つ親子を地域で支えるサロンを』プロジェクト～寄付キャンペーンご協力のお願い～

Give One E-ファンドレイジング・チャレンジ

『東海地域にアレルギーを持つ親子を支えるサロン*を』プロジェクト

*サロンとは…交流会広場や患者会など

いつもアレルギー支援ネットワークの活動に対するご支援・ご協力をいただきまして
誠にありがとうございます。

2012年11月27日(火)より、1ヶ月間限定でオンライン寄付サイト「Give One (ギブワン)」

のご協力のもと、アレルギー疾患があっても安心して子育てをすることができる環境づくり(交流会広場や会の設立など)のために寄付を募る「支え合い200人キャンペーン」を行ないます。プロジェクトの内容・寄付についての詳細はGive One 特設サイトをご覧ください。皆さまからのあたたかいご支援をよろしくお願い致します。

◆ Give One 特設サイト ◆

<http://www.giveone.net/cp/PG/CtrlPage.aspx?ctr=pm&pmk=10290>

◆ キャンペーン期間 ◆

2012年11月27日(火)～2012年12月26日(水)

◆ 目標金額 ◆

200,000円 ※1,000円から受け付けています。

Give One 特設サイトに掲載しきれなかった、東海地域のサロンに参加するアレルギー疾患を持つ患者家族の声

* (K市の会参加者)

アレルギーの会には先日初めて参加させていただきました。
幼稚園やご近所、友達にはあまりアレルギーの子がおらず、我が子だけが辛い思いをしているように思えることが多々ありました。
みなさんのお話に共感する部分が多々あり、他にもこんなにがんばっているママさんたちがいたんだと、励まされました。

* (N市内の会参加者)

上の子が赤ちゃんのときに食物アレルギーと判明したにもかかわらず、アレルギー専門医ではない小児科でアレルギーの標準治療とはかけ離れた指導

を受け、その指導のもと生活をしていました。小学生になった今でも、卵を食べることはできません。早い段階でアレルギー専門医の存在を知り、正しい治療を受けさせていたら、私自身がアレルギーの知識を持っていたらと後悔することばかりです。

地域でアレルギーの会があることを知り、参加させてもらうようになり、病院やアレルギーの情報が得やすくなりました。同じアレルギーっ子のママとお話することで、励まされたり、共感できることも多く、精神的にも救われています。病院や医師からは得られない、毎日の食事や園・学校生活のような身近な悩みを解消したり、情報が得られるのも大きいです。

下の子はさらに多品目のアレルギーがありますが、会のおかげもあり、アレルギーとも前向きにうまくつき合っています。

アレルギーっ子をはじめ子育てするママたちにとって、地域のアレルギーの会は心強い存在になると思っています。

* (T市の会代表)

私は医療従事者ですが、医療知識がある程度あっても子供が日常生活を送る上で不安や心配は尽きませんでした。日々の食事から保育園、小学校の事、そして災害時の対応など、勉強会や会員のお母さんの経験談からこの会で得ることが出来たものは本当に大きいです。子供のアレルギーについては一番身近な家族からでさえ理解が得られるとは限りません。普段他人が当たり前食べている食事が命に関わる事があるのです。怖い、面倒、関わりたくない等の感情や言葉を受けながら現在も過ごしているのが現状です。

先日は東日本大震災で震災の真っ只中で医療の陣頭指揮を取った医師のお話を聴く機会がありました。その先生のご経験では幸いアナフィラキシーショックで死に至ったケースは無かったとのことでしたが、逆にいつその様な事が起きても不思議はない状況だったと言われました。そして周囲に食物アレルギーをはじめとするアレルギー疾患について知ってもらう事がとても重要であるとのアドバイスを頂きました。

また先日アナフィラキシーショックで死亡した三才の子供さんの裁判の記事が新聞に掲載されていましたが、重症の食物アレルギーに対して極端な食事制限を行った結果、栄養障害を来し、その事が虐待と判断され施設に「保護」されている際にアナフィラキシーショックで死亡したとのことでした。親、病院、保護施設に正しい知識と対応があればきっと救えた命だったのではないかと、そう思えてなりません。

この会はT市に初めて立ち上がった正しい情報交換と情報提供が出来得る大変貴重な会であり、この会が存在することでアレルギー疾患を持つ子供さんやその親御さんが孤立することなく様々な面でサポートを受ける事ができるのではないかと思います。

* (N市の会参加者)

交流会に参加し、アレルギーっ子の災害時の対策について学びました。防災士の方が会に来て、食物アレルギーの子どもでも安心して食べることがで

きる、「パッククッキング」について教えてくださったり、市の防災課に出前講座をしていただきました。また、アレルギー支援ネットワークの方より、東日本大震災におけるアレルギー患者の支援活動の報告を伺い、何をどう備えたらよいかのアドバイスをいただいたりしました。今まで、東海・東南海地震について話は聞いていたけれど、我が子(アレルギーっ子)の対策については不十分だったと反省しました。また、市の防災訓練に「アレルギー対応の炊き出し訓練」があったり、備蓄のアルファ化米もアレルギー対応のものだと伺い驚きました。会があり、防災士さんや防災ボランティアさん、自治体(防災課)の方と繋がりを持つことにより、アレルギーの対策が進むことを実感しました。

8、「食物アレルギーによるひやりはっと事例の調査アンケート」ご協力をお願い

「食物アレルギーによるひやりはっと事例の調査アンケート」ご協力をお願い

アレルギー支援ネットワークでは、藤田保健衛生大学坂文種報徳会病院小児科、宇理須厚雄先生らの2012年度消費者庁研究事業「即時型アレルギーによる健康被害防止のための資料改訂」にご協力をするために「食物アレルギーによるひやりはっと事例の調査アンケート」(以下「アンケート」と略します)を実施しています。

「アンケート」の締切は12月末

その後、集計と分析を行い、事例集を発刊いたします。

【アンケートにご協力をお願いしたい方】

食物アレルギーの原因食品を食べたり、触ったり、吸入したりしたときなどに起きたトラブルについてお答えください。

- ① 患者ご自身、或いは、患者の保護者の方にご記入をお願いします。
- ② 園や学校などでトラブルがあった場合は、保育士・栄養士・調理員・教師が、その時の状況や対応についてご記入をしてくださっても構いません。
- ③ お知り合いの方で、病院や外食産業など、保護者以外の方でもトラブルのご経験があれば、是非ご記入をお願いします。

【アンケートの実施方法】

- ① ひやりはっとした事例のある方にアンケート用紙をお渡しし、記入をお願いします。

1事例につき1冊のアンケート用紙にご記入ください。複数の事例がある場合は、お手数ですが、コピーをしていただくか、事務局までご一報いただければ郵送をさせていただきます。

- ② 複数の事例がある場合は、園で配布回収をしていただき、同封いたします

した料金受取人払いの返信用の封筒で、とりまとめて返送をしていただくと助かります。対象の方がお一人の場合は、封筒をアンケートとともにお渡しいただき、ご回答後、直接ポストに投函ください。

【HPからもアンケートにお答えいただくことができます】

アレルギー支援ネットワーク HP (<http://www.alle-net.com/>) 右側カテゴリーの上方

「食物アレルギーに関するひやりはっと事例のアンケート調査のお願い」をクリックしていただくと入力フォームにはいることができます。

ご不明の点は、担当の中西(070-6533-6723)までご一報ください。

どうぞよろしく願いいたします。

《お問合せ先》 認定 NPO 法人 アレルギー支援ネットワーク 担当 中西 里映子

〒453-0021 名古屋市中村区大秋町 2-45-6

電話 052-485-5208 FAX 03-6893-5801 携帯電話 070-6533-6723

E-mail info@alle-net.com URL <http://www.alle-net.com/>

9、賛助会員からのメッセージ ニチモウバイオティックス

画期的な新素材『イムバランス』

大豆と麹菌発酵の力で免疫バランスを調整！

アレルギーの体質改善をサポートいたします。

はじめまして！ニチモウバイオティックスと申します。

私どもは、「大豆」と「麹菌」を主原料に独自の発酵技術（特許取得）で開発した、健康食品素材および健康食品を販売しています。

中でも「脱脂大豆」を「(味噌) 麹菌」で発酵させた「イムバランス」は、植物乳酸菌の「プロバイオティックス」、食物繊維、大豆オリゴ糖の「プレバイオティックス」、そして麹多糖類の「バイोजェニックス」と3つの相乗効果により乱れた免疫バランスを整える働きが確認されています。

この画期的な素材は、

◎米国アレルギー学会前会長、マウントサイナイ大学医学部小児科の Dr. H. A. Sampson 教授

◎国立東京農工大学大学院農学研究院の松田浩珍教授

も高く評価してくださり、食物アレルギーやアトピー性皮膚炎への効果検証を共同で研究してきました。

この「イムバランス」を、アレルギーにお悩みの方たちに、手軽に日々ご利用いただけるよう開発したのが『イムバランス+ギャバ』という健康食品です。コーティング剤など余計なものを使用していないため、錠剤はお味噌のような芳ばしい香がします。

アレルギーの体質改善の新たな選択肢として、ぜひ一度お試しください。

製品を通じて、皆さまの健やかな毎日のお役にたてましたら幸いです。

■ 『イムバランス+ギャバ』(180粒) * 1日6~9粒目安 ¥4,800円(税込)
<http://isolacom.jp/SHOP/Imm-RG001.html>

↓↓ニチモウバイオティックスのホームページ↓↓

<http://www.nichimobiotics.co.jp/index.html>

10、アレルギーっ子フェア開催決定のお知らせ

来る2013年2月2日(土)3日(日)に毎年恒例となりました、アレルギーっ子のフェア開催が決定しました。

初日に第7期アレルギー大学 上級修了証授与式を行い、記念講演には東京都立小児同病医療センターアレルギー科 看護師 益子郁代先生をお迎えして、「アレルギーと親子や心」をテーマにご講演いただきます。また、午後からは、食物アレルギーについて理解を深めることを目的として開発されたゲーム教材「らんらんランチ」について順天堂大学医学部公衆衛生学教室 堀口逸子先生にご講演していただく予定となっております。

また、2日目にはアレルギー専門医の先生に講演をしていただく予定となっております。

その他にも、米粉のレシピ紹介、栄養相談コーナーなど、みんなで楽しんで頂けるような企画を予定しておりますのでぜひ、ご家族・ご友人等お誘い合わせのうえご参加下さい。

フェアの詳細は随時発表してまいりますので、どうぞご期待下さい。

11、12月度「アレルギー児の親の交流会」開催のお知らせ

食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、ぜん息など、アレルギーのお子さんの事、アレルギーかな?と、お悩みのある方、スキンケアや食事の事、園や学校についてなど私たちと一緒にお話をしませんか?どこの交流会へも参加可能です。交流会を実施している区外、或いは近郊の市町にお住まいの方の参加やお問合せも多く、ご要望の多いところから順に交流会の開催準備をすすめています。参加希望の方はご連絡を下さい。お待ちしております。

12月は

4日(火)春日井アレルギーの会

レディヤン春日井

5日(水)西尾アレルギーの会 アレッ子元気
一4階 洗心庵

西尾市総合福祉センター

5日(水)緑アレルギーの会
和室

片平ふれあいセンター

5日(水)あま市アレルギーの会

美和公民館 研修室1

| | |
|---------------------------------|-------------|
| 6日(木) 守山アレルギーの会 研修室 | 守山区社会福祉協議会 |
| 11日(火) 天白アレルギーの会 ンター・ボランティア室 | 天白区在住サービスセ |
| 14日(金) アレルギー支援ネットワーク ワーク 事務所 | アレルギー支援ネット |
| 15日(土) 日進アレルギーの会 | 日進市西部福社会館 |
| 16日(日) 刈谷アレルギー児の親の会 活動センター | 刈谷市民ボランティア |
| 20日(木) 豊橋アレルギーの会 児童保育室 | 豊橋会館「さくらピア」 |
| 20日(木) 名東区アレルギーの会 | 森の集会所 |

名古屋南部アレルギーの会は未定の為、お問合せ下さい。

【対象】0歳～中学生位までのアレルギー児の保護者

【参加費用】各交流会に確認して下さい。

お申込は電話 052-485-5208 URL<http://www.allie-net.com/>
皆様のご参加をお待ちしております。

12、「アレルギーっ子の防災セット」登録についてお知らせ

アレルギー支援ネットワークは震災を通じ直面した課題克服と今後の災害発生に向けて、「アレルギーっ子の防災セット」の普及活動を行っております。

緊急事態でも迅速かつ的確にアレルギー支援活動を行うための「アレルギーっ子の防災セット」は、「登録シリコンバンド」「緊急連絡カード」「安否確認システム」の3点がセットになっています。

お申込みはアレルギー支援ネットワークのHPから「安否確認システム」に登録することで、1患者につき「登録番号入りシリコンバンド1本」と「緊急連絡カード3枚」が郵送されます。登録対象者は、アレルギー患者本人または保護者の方です。アレルギー支援ネットワークや各患者会などの会員以外の方も登録可能で、一切費用はかかりません。ぜひ、ご登録をご検討下さい。

また、登録の際にご注意いただきたい点があります。下記の注意点をご確認の上ご登録下さい。

① 迷惑メールフィルター設定をしていませんか。

仮登録をされた後、本登録していただくためのホームページのリンクを仮登録で入力していただいたメールアドレスに送信していますが、

迷惑メールフィルターによって受信不能（弾かれる）になっている方がたくさんいらっしゃいます。携帯端末だけではなく、yahoo や Gmail などのフリーメール、プロバイダ提供のメールフィルターでも起きています。

お手数をおかけしますが、迷惑メールフィルターの設定を今一度ご確認をお願いいたします。

PCメールの受信（システムからの自動・一斉送信を受信）、なりすましメール（メーリングリストからのメールを受信）の設定をお願いいたします。

その際のアドレス（ドメイン）は、@alle-sien.sakura.ne.jp と、@alle-res.com です。

- ② 登録の際、「ルート認証が確認できないため、接続できません」等の警告が表示され、接続できなくなる事があります。

ご登録の際に、i-mode や ezweb、Y!ケータイなどで接続すると表示が出てしまい接続できない場合があります。これは、暗号化通信で中継してくれるサーバがパソコン用（一部のドコモの機種に対応）の回線にしか対応できていないために発生しています。

これらを避けるため、皆様の登録の際には、「フルブラウザ」「PCサイトビューア」「PCサイトブラウザ」などのパソコン用のホームページ閲覧機能をお使いいただき、「ルート認証が確認できません」と出ても無視して接続してください。

それでも接続できない場合、登録や情報更新の時は、申し訳ありませんがパソコンをご利用ください。

また、すでに登録されている方で、パスワード設定をされていない方（2011年8月末から接続されていない方）は、防災ネットワークのトップページ左下の「パスワードを忘れた方は、こちら」の「こちら」をクリックしていただき、パスワードを設定してください。

新システムからご自身で登録情報の確認や更新ができるようになります。

なお、新システムはまだ改修途中で、登録内容の入力方法の簡素化や医療機関・協力組織との連動性の向上などを進めています。

皆様には、まだご迷惑をおかけするかもしれませんがよろしく申し上げます。

13、アレルギー教本「食物アレルギーの基礎と対応」のご案内

皆さまは、既にお持ちですか。

アレルギーに関わる皆様のバイブルとなる「食物アレルギーの基礎と対応」。本書は、宇理須先生監修の下、アレルギー専門の医師やアレルギー対応給食の現場で活躍されていた先生等専門の方々に執筆・編集協力をしていただいております。

アレルギーに関わる仕事をされている方、アレルギーのご家族がいらっしゃる方、アレルギーに関わる皆様はもちろん、アレルギーについて勉強がした

い、興味があると言う皆様にもぜひ、お手元へ置いていただきたい一冊です。

14、メールマガジン会員募集中！無料です。

アレルギー最新情報や地域の会の情報など、「アレルギー」に関する情報満載の「アレルギー支援ネットワーク・メールマガジン」。ただいまご購読会員募集中。ご購読は無料です。みなさんの周りの方にも、ぜひご登録をおすすめください。また「こんなことを取り上げてほしい」「知りたい情報がある」などメールマガジンで取り上げる記事についてのご要望もお待ちしております。あなたの声で、アレルギー対策が一步前進するかもしれません！
info@alle-net.comまでお気軽にどうぞ。

15、募金にご協力ください

※認定 NPO 法人アレルギー支援ネットワークは寄付金控除対象団体です※
「giveone」

<http://www.giveone.net/cp/PG/CtrlPage.aspx?ctr=pm&pmk=10108>

「東海ろうきん NPO 寄付システム」

<http://tokai.rokin.or.jp/npo/index.html> を通じて寄付をお願いしております。寄付の方法や支援していただく事業などは、各リンク先をご確認ください。また直接の寄付および領収書発行等につきましては、下記事務所までお問い合わせください。

=====

★メールアドレスの変更や、このメールマガジンに関するお問合せは asn-mailmagazine@alle-net.com (メルマガ編集部)までお願いします。また、今後、アレルギー支援ネットワークのメールマガジンを希望されない方は、お手数ですが、件名に「配信停止希望」と書いてメールをお送りください。(メールマガジン配信準備の都合上、配信停止手続きと行き違いでお届けする場合がございますが、ご了承ください。)

★メルマガの転載について

無断転載・転送を禁じます。アレルギーの会などが活動で使用する場合は、メルマガ編集部 asn-mailmagazine@alle-net.com までお尋ねください。なおメールマガジンのメールアドレスには、返信はできません。ご注意ください。

☆☆☆みなさまからのご質問を募集中！アレルギーや支援ネットワークに関することなんでも OK です。ぜひお気軽にどうぞ☆☆☆

★みなさまからのご要望、お便り、アレルギーについての疑問などお寄せください。

◇事務局◇

453-0042 名古屋市中村区大秋町 2-45-6(3月5日に事務所はこの住所に移転致しました)

▽TEL : 052-485-5208

▽E-mail : info@alle-net.com

☆ ◆ -----